

第2回懇話会から第3回懇話会までの取組

第2回懇話会意見への対応及び方針

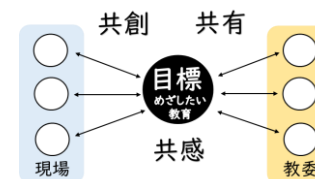
第2回懇話会意見への対応及び方針

No.	発言者	内容・意見	意見への対応及び方針
1	妹尾構成員	教職員の意見も重要であり、ワーキンググループに参加していない教職員の声も拾うしくみが必要である。	学校管理職への照会を通じて、ワーキンググループへ参加していない教職員の意見を聞きたいと考えています。ワーキンググループの設置は今回が初めての取組でしたので、ご意見については次回以降の計画策定に向けて検討します。
2	妹尾構成員	学校裁量予算の実態について、こどもや教職員のアイデアを学校現場で実現するためには、学校や学校群としての裁量が確保されているかを検討すべきである。	本市が進める「新たな学校のあり方」は、中学校区にある小学校と中学校を1つのチーム（学校群）として考え、小学校・中学校9年間を見通しチームとして連携することで、それぞれの学校の課題や必要性に応じて、「強み」や「資源」をいかした自主的・自律的な学校運営をめざすものです。教育委員会では、学校がやりたいと思う取組を柔軟・円滑に実現できるよう、「学校の出来ることを増やす」観点から、ヒト・モノ・カネの分野においてルールの見直しに着手しています。特にカネやモノに関する部分では、複数の学校の予算を集約して活用できる仕組みの構築や、学校の判断で配分割合を調整できる予算項目・種別の拡充、学校間での物品の一次的・臨時的な貸し借りや共同利用等、学校の状況や課題に合わせて臨機応変に対応できる環境の整備を進めます。
3	妹尾構成員	教育振興基本計画において、教育委員会所管の施策を中心に扱うことは理解できるが、首長部局や生涯学習との連携を一層示していく必要がある。人生100年時代における学び直しや学び続ける社会の実現には、部活動の地域展開なども含めて、学校教育と社会教育がより密接に連携できる仕組みについて考える必要がある。	こどもたちが健やかに成長するために、社会教育は学校教育や家庭教育とともに重要なものであり、それらが連携して取組を進める必要があると考えています。第3期プランに引き続き、次期プランの策定範囲は、「学校教育を軸として、家庭や地域社会も含めた教育に関わる取組」としており、プランの位置付け図には、市長事務部局で策定する生涯学習基本方針等の関連計画も明確化しました。また、新たに第1章には家庭教育と社会教育の説明を記載し、こどもを中心に学校・家庭・地域が相互に連携・協働する関係性を図で示しました。また、各基本施策の内容や主な取組の中で、学校・家庭・地域との連携・協働の重要性や方向性について記載しました。次期プランにおいては社会教育や家庭教育支援の重要性を明示し共通理解したうえで、各基本施策の取組を推進したいと考えています。
	葛西構成員	計画全体を俯瞰すると、社会教育の扱いが少なく見える点が気になる。	
4	妹尾構成員	「教員像」ではなく「教職員像」とする方が適切である。教員以外のスタッフや行政職員も教育を支えているためである。	ご意見を踏まえ、「めざす教職員像」へと修正しました。
5	妹尾構成員	教育像や学校像の表現が抽象的、一般的な点が気になる。堺市として特に注目すべき要素を明確にする必要がある。	これまでの教育委員会での議論を踏まえ、教育理念・めざす教育像の内容について検討しました。検討に際しては、求められている資質・能力、本市の思いや方向性、端的にわかりやすくするために用語等を統合整理しました。教育理念や教育像に掲げる言葉自体は「不易」として継承しつつ、それぞれの具体的な内容は社会潮流をふまえた「流行」として、より伝わりやすい言葉へと内容を更新しました。
6	田村構成員	めざす教育像には、教育環境を整備すべき教育委員会の姿が示されていない。多くのめざす姿を並べるだけでなく、それを支える教育委員会の役割や姿勢を明示する必要があるのではないか。	教育委員会の役割や姿勢については、教育像としてではなく、その達成に向けた具体的な内容である基本的方向性3の各基本施策において記載しました。また、第4期プランでは、めざす教育像を示す図を作成し、教育委員会が土台となり支える様子が伝わるように工夫しました。（第4期プラン素案P.29参照）
7	水流添構成員	スクールソーシャルワーカーなどの専門職が、課題が顕在化する前の「発見」や「予防」の段階から関わることが重要であり、そのような点も取組の中に入れていただきたい。	基本施策6「こどもの安全・安心」において、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等の専門家や関係機関との連携について記載しました。また、めざす教職員像においても、「こどもの生命や安全・安心を多様な主体と協働しながらチームで守る」と表記し、「連携・協働」を意識した記載としました。
8	泰山構成員	「確かな学力」に関連する要素として、「学びのコンパス」「探究的な学びの充実」「情報活用能力の育成」が密接に関係している。これらの要素を構造化・分類して示すことで、より伝わりやすい構成になると考える。	第2回懇話会で示した主な取組の要素の文言や内容を検討し、基本施策ごとに体系的に整理しました。
9	泰山構成員	教育委員会による支援の方向性について、教育DXの視点からの教員の働き方に関する取組や、教員のウェルビーイングに関する取組についても、強調的に示したほうがいいのではないかと。	「ウェルビーイング」・「教育DX」・「堺が進める『新たな学校のあり方』」を、すべての基本的方向性・基本施策を貫く基本的視点として設定しました。3つの基本的視点を踏まえてすべての取組を進めるため、第3章では各基本施策に主に関わりがある基本的視点のポイントをピクトグラムを用いて強調的に記載し、読みやすさ・わかりやすさを意識しました。
10	田村構成員	確かな学力のゴールとして、「自ら学びを進めることができる力のあるこども」とあるが、ここに「共に学ぶ」ということは入らないか。	基本施策1「確かな学び」のゴールを「自ら学びを進めることができるこども」としており、ゴールに向けて、「自ら学び続け、他者と協働しながら、学んだことを自身の人生や社会で生かすことのできる幅広い力を育む」と記載しました。また、基本施策1の方向性として、「学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ力の育成」の要素の一つに「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を置き、「共に学ぶ」ことを含んでいます（第4期プラン素案P43、44参照）

11	妹尾構成員	主な取組のうち、黒字で示された「継続」項目についても、内容の更新や再検討が必要なものがあると考える。例として、「情報活用能力の育成」、「こどもの安全・安心」	第3期プランから継続し、第4期プランでも取り組む項目について、事務局内で協議し、実態に応じて内容の更新を検討し記載しました。項目（名）は同じでも、「不易と流行」を意識し、必要に応じて、時代や現状に合わせた内容としています。
12	妹尾構成員	「豊かな心」の育成に関連して、体験活動だけでなく、休日のこどもの居場所や活動支援の視点が重要である。部活動の地域展開や社会教育との連携が求められ、家庭環境による体験格差への対応も含めて、自治体としての関与のあり方を検討すべきである。	休日のこどもの居場所や活動支援に関しては、教育委員会だけではなく本市全体で一体的に取組を実施する必要があると認識しています。市長事務部局との連携に加え、教育委員会としても学校、家庭、地域や各種団体等の連携により、休日のこどもの居場所となりうる部活動の地域展開や家庭教育支援の取組、図書館サービスの充実など、引き続き検討を進めます。
13	妹尾構成員	教職員の人材不足は深刻な課題であり、学校マネジメントの問題ではないのではないか。働き方改革や働きがいのある職場づくりとあわせて、どのように教育委員会および国の政策が対応するのか、より深めていかないといけないと思う。	基本施策4「学校マネジメント力」のゴール「すべての教職員とこどもが安心して学び、働き、成長できる学校」を達成するためには、学校マネジメントの推進とよりよい学校組織の構築が必要だと考えています。よりよい組織の構築には、人材不足の中でも優秀な教職員を確保することと現職の教職員の育成を行うことの2面が必要であるため、人材確保に向けた取組も基本施策4として整理しています。全国的に教職員の人材不足が深刻な課題であることを踏まえ、採用選考での様々な工夫や国の方向性を踏まえた働き方改革のさらなる推進と併せて、本質である教職の魅力をしっかり伝えながら、本市として一体的に取組を推進します。
14	妹尾構成員	「ウェルビーイング」「教育DX」「学校のあり方」の3つの基本的視点が具体的な施策や取組に十分に反映されていない。今後の議論や説明が必要である。	前述のとおり（No.9）、3つの基本的視点の主に関係するポイントを各基本施策ごとに記載し、各取組を進める際に、そのポイントを中心に基本的視点を意識できるようにしました。その上で、具体的にどのような取組を行うのかについては、余白を残すことで、それぞれの状況や環境によって取組の幅が広がるように、具体的な記述はしていません。ただし、具体的な取組については、毎年実施している「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」の際に、実施した取組を振り返り、記載をする予定です。
15	苫野構成員	幼児教育・保育は、学校教育の前段階として位置づけるべきではなく、むしろ学校教育が幼児教育から学ぶべき点が多くある。幼児教育における「遊び込む」「学び込む」といったこども観を尊重し、教育の基本として捉えるべきである。	幼児期の豊かな遊びや体験を通して育まれた学びの芽を、円滑に小学校以降の生活や学習につなげることが、基本施策1のゴールである「自ら学びを進める力」の育成に寄与すると考えています。
16	苫野構成員	「スタンダード」という表現は、現場に対して「この通りにせよ」という圧力になりかねず、教員の創意工夫を阻害する可能性がある。	「堺・スタンダード」は、豊かな情操を育む取組の1つであり、具体的には全学校で挨拶運動や朝の読書、茶の湯体験に取り組んでいるものです。なお、「スタンダード」という言葉は現場ではかなり浸透している状況がありますが、創意工夫を阻害する意図はございません。使用する言葉には十分留意します。
17	葛西構成員	学校や個別の施策だけでなく、教育委員会の効果的な運営に関する改善策も必要ではないか。また、事務局に対しても、ハード面ではなく、創造的な組織づくり、人材採用・育成のしくみなどソフト面に焦点を当てた取組が求められると思う。	教育委員会の運営に関しては、教育委員それぞれの経験や知見に基づき多様な意見をいただきながら教育施策を推進しており、引き続き、より効果的な教育委員会の運営について、検討を進めます。 また、教育委員会事務局においては、他任命権者との積極的な人事交流や組織の課題に応じた研修等により職員力・組織力の向上を図り、多様化する教育課題に対応できる効果的で効率的な組織体制を構築することで、本市教育行政を着実に推進します。
18	菅構成員	「こどもの意見が反映される学校マネジメント」に関して、もっと柔軟に転校できたり自分で学校を選ぶような学校があれば不登校のこどものサポートにつながるのではないかと。全区一斉ではなく、各区に1校でも校区を無くした学校（多様化学校）があればいいと思う。従来の学校ももちろん必要で、そこになじめないこどもが選択できる学校があればいいと思う。	学びの多様化学校については不登校児童生徒の学びの場の一つであると認識しています。学びの多様化学校設置の可能性も含めて、効果的な不登校児童生徒への支援について検討しています。引き続き、国の動向や他自治体の事例等を研究しながら、本市においてより効果的な支援の形を検討します。
19	菅構成員	そのような学校を作るには場所も教員も必要だとは思いますが、例えば統廃合によって使われなくなった学校を有効活用できたらいいと思う。	

ワーキンググループとこどもの意見について

ワーキンググループの意見について（案）



ワーキンググループ（WG）の構成：幼・小・中・高・支援学校から30名、事務局19名 計49名）

学校現場の教職員と教育委員会事務局の職員との意見交換（WG）

目的

- ・次期計画に、**現場で働く教職員の意見や思いを取り入れるために、協働的に次期計画を作成する。**
- ・市の教育方針や目標を、「**自分事**」、または「**自校の事**」として捉え、市全体で**教育ビジョンを共有**する。

方法

- ・学校園から推薦された**教職員がワーキンググループ(WG)に参加。**
- ・できるだけ**教職員の負担を減らす**ため、オンラインミーティングも含めた**ハイブリッド型のミーティング**を計画。



基本施策1 確かな学び

意見

授業改善に取り組んでいても、保護者の理解がなければ、批判的に捉えられることがある。
そのために、保護者意識を変える（教科学力だけではないということを理解してもらう）

一部の教員はまだ旧態依然の教育観で止まっていることもあり、教員の授業観や教育観の転換 意識改革を行えるか。

こどもに、市の課題、課題解決に向けた取組、どんな児童生徒をめざして学習を進めるのか周知。

非認知能力の育成は重要であることから、何か非認知能力の育成に向けた取組ができないか。

学びのコンパスの考えにもとづく、こどもに学びをゆだねる授業づくり、授業改善（改革）

第4期プランへの反映や対応

記載は ☒
未記載は ☐

次期計画の策定に向けては、いわゆる教科学力の向上のみが焦点化されないよう、基本施策の名称を「確かな学び」としました。
こどもたちに必要となる「総合的な学力」の育成に向けて、「学びのコンパス」に基づいた授業改善に取り組み、本市の考え方を保護者にも知ってもらえるよう、市HP等をはじめとする情報の発信に努めます。

堺市立学校運営における指針（いわゆる黄表紙）や各種研修などを通じて、こどもの主体的な学びを進め、授業観、こども観の転換を図ります。

次期計画においては、こどもの意見聴取に向けた取組等を通じて、市の教育について伝えています。また、次期計画においては、こども版の計画策定するなど、こどもたちが自分ごととして受け止めるための取組を進めます。

自己肯定感や主体性等の非認知能力については、何か一つの取組ではなく、特別活動など学校教育活動全般を通して育まれるものと考えています。

学びのコンパスに基づく授業改善について、引き続き学校やこどもへの一層の浸透を図ります。

基本施策1 確かな学び

意見

学びのコンパスのゴールは「学力」なのか、「自ら学ぶ力」なのか。学びのコンパスで身につける力をより適切に測ることができる評価や評価方法の見直しも必要ではないか。

オンライン英会話など世界や文化とつながる体験

国や市の多文化共生の取組を学校へ一本化して周知、実施校をシステム化

深い思考や豊かな交流のための言語能力の向上

第4期プランへの反映や対応

記載は ☒
 未記載は ☐

学びのコンパスは、これからの時代に求められる学びに対応するため、「こどもが自ら学びを進める授業の考え方」を示すものとして作成しました。次期計画における「基本施策1確かな学び」の中で、学びのコンパスに基づく授業改善をはじめ、各種取組により、こどもたちがどう変容したかを評価する検討を進めます。

オンライン英会話の実施や異文化理解について、引き続き取組を進めます。

市の多文化共生の取組については、基本施策1確かな学びの中でも記載しており、引き続き関係部局と連携して周知等を進めます。なお、実施校のシステム化については、各学校において人権教育年間指導計画に基づき異文化理解教育を進めているため記載予定はありません。

言語能力の向上については、何か一つの取組で向上するものではなく、カリキュラムの改善や授業における協働的な学習等さまざまな教育活動の中で育むもののため、引き続き各取組を進めます。

基本施策2 豊かな心

意見

（人権教育や道徳教育に関して）教員の指導力差があり、ベテラン教員が減ってきていることから、今まで実践知として伝承されてきた部分も含め、より具体的な声掛け事例を学ぶ研修など、指導に直接つながるような、教員の資質や指導力を向上させる研修があればいいと思う。

人によって考え方がさまざまな部分もあるので、豊かな心の育成の方向性を全市で統一して、共通理解した上で取り組んでいきたい研修で豊かな心を育む方向性の統一

こどもの良いところを見つけるためには、教員自身の自己肯定感や心の余裕が必要と思うので取組が必要と思う。（教員のウェルビーイングがこどものウェルビーイングにつながる）

多様な人との出会いから様々な価値観に触れることによって、多様な価値観を認める心を育てる
多様な価値観を持つため、学校間での交流を行うなど、新しい人との出会いが必要。

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
未記載は ☐

基本施策2豊かな心において、人権教育や道徳教育に関して教職員の意識や指導力向上に資する取組について記載しています。引き続き、研修等の機会を充実させ教職員の資質・指導力や学校園での取組の質的向上を図ります。

次期計画においては、「基本施策2豊かな心」について内容を見直し適切に記載して、共通理解を図ります。

教員がこどもと向き合うためには、教員自身のウェルビーイングの向上が重要と考えています。教職員のウェルビーイングについては「基本施策4学校マネジメント力」の中で記載しています。

他校との交流活動や地域・企業と連携した様々な体験活動等を充実させ、多様な価値観を認める心を育みます。

意見

異文化を知る機会の創出（ゲストティーチャーの活用など）



第4期プランへの反映や対応

記載は ☒
 未記載は ☐

各学校の実態に応じて、NSとの交流やゲストティーチャーの招へい等の支援を行っていますので、引き続き各校の取組を支援します。また、「基本施策1 確かな学び」・「基本施策2 豊かな心」の中で異文化理解に向けた取組や豊かな情操を育む体験・交流活動の充実にに向けた取組について記載しています。

スマホやSNSのルールの定着に向けた取組



堺市立学校スマホ・ネットルール5『まもるんやさかい』の啓発等の取組を進めます。また、スマホの使用時間を含め、生活習慣の改善について家庭に啓発することについて次期計画に記載します。

人権教育と道德教育を授業に加えて教育活動に落とし込み、学校群で共有



これまでの学校群の取組としては、教材・教具の共同作成や共有、合同授業を行った事例がありました。こうした実践事例は「堺が進める「新たな学校のあり方」～チームで支える、こどもの学びと育ち～の実践に向けた参考事例集」に掲載しています。今後も事例収集を行い、学校連携に資する取組の一助となるよう、事例集の充実を図ります。
「堺市人権教育推進方針」において、人権教育はあらゆる教育活動を通じて取り組むことを明記しており、引き続き取組を進めます。

基本施策3 健やかな体

意見

学校だけでは限界がある部分も大きいため、生活習慣を形成するための保護者を巻き込む取組の充実（HPの活用・学級通信の発行・保護者とこどもがつながるしかけ）

体験・経験の機会を確保し、それらの経験を通して、体を動かすことや、自分の健康への関心を高める

アンケートをとりっぱなしにしないための工夫を行い、生活習慣を見直すための各種アンケートのフィードバックの実施

身体測定や新体力テストの後の振り返り

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
 未記載は ☐

基本的な生活習慣の形成について、食育の推進、みんいく（睡眠教育）の実施、健康教育の推進等について、家庭への啓発・連携も含めて次期計画に記載します。

体育授業のあり方について研究を進め、運動に興味を持ち、主体的に運動を行うことができるこどもを増加させることをめざします。また、生徒の自主的、自発的な部活動参加のもと、スポーツや文化芸術活動に親しみ、生徒の健全育成に資する効果的な部活動の活性化を図ります。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査や全国学力学習状況調査の質問紙調査等各種調査については、各校へのフィードバックを行っており、引き続きそれらを活用した取組を進めます。

新体力テストの結果は体育授業のあり方について研究を進めるうえでのデータとして活用され、運動に興味を持ち、主体的に運動を行うことができるこどもを増加させることをめざします。

基本施策3 健やかな体

9

意見

みんなく（睡眠を自己評価数値の見取り）



基本的な生活習慣の形成のための一つの取組として、みんなく（睡眠教育）について次期計画に記載します。

こどもが自身の体力や健康について考え、課題を自覚し、対策を考える取組



健康教育の推進として、こどもたちが自身の健康へ関心を持ち、正しい知識を身につけられるよう、発達の段階を踏まえ薬物乱用防止教育、性に関する指導やがん教育、安全教育などに取り組みます。

自分の夢と目標と、自身の身体や生活スタイルや食生活を、つき合わせて見つめる授業をする



体育科・保健体育科や特別活動での健康に関する指導をはじめ、学校教育活動全体を通じて、こどもたちが生涯にわたり心身の健康を保持・増進するための資質・能力の育成を目指し、健康教育の推進に取り組みます。食育の内容として、食に関する正しい知識と望ましい食習慣、将来にわたる健全な食生活の基礎を育むことを記載します。

記載は ☐
 未記載は ☐

意見

報・連・相ツール、メールや掲示板、teamsの活用

部活動の外部人材の活用

授業時数の上限を明示する

全市的な働き方改革についての意識の統一

第4期プランへの反映や対応

記載は ☒
 未記載は ☐

▶ すでにTeamsやメールなどのツールを導入し、教員用パソコンで使えるようにしています。また、教員間で共有できるよう教育情報ネットワーク上に活用事例を掲載していますので、参考にいただき、活用をお願いします。

▶ 部活動の外部人材の活用については、引き続き部活動指導員を配置し部活動顧問の負担軽減を図ります。
部活動をはじめ、外部人材を活用した学校園業務の適正化について、「ウェルビーイング向上のための取組指針」に基づき取組を推進します。

▶ 標準授業時数の柔軟な運用と適切な管理は重要と考えています。また、現在中教審の特別部会においても授業時数や柔軟な教育課程について議論がされていますので、国の動向を注視します。

▶ ウェルビーイング向上のための取組指針等において、本市の考え方を示し、市全体で働き方改革に向けた取組を進めます。なお、次期計画においても記載します。

意見

管理職研修の充実

メンター・メンティー制度

校内共有から広げた、学校群内でデータを共有できるフォルダがあれば、一層の交流や協働を生み出すことができるのではないか

教師も自律的に学ぶため、幅広い研修から自分が受講したいものを受講できる研修制度の改変

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
 未記載は ☐

▶ 管理職マネジメントプログラム等を通じて、管理職のマネジメント力の向上に引き続き取り組みます。

▶ 新任者を対象とした制度を設けていますが、対象を広げた実施の予定はありません。

▶ 学校群内でのデータ共有を促進する仕組みは、共有フォルダではなくても現在導入しているMicrosoft Officeのクラウドツールや校務支援システムの運用の工夫等で対応できると考えます。
現時点では、共有フォルダの管理は各学校が責任をもって適切に管理する必要があると考えています。

▶ 教育センターにおける研修事業は、教育情報ネットワーク等をとおして、教職員に研修計画を周知しています。初任者研修、中堅教諭等資質向上研修については法令の定めるところにより実施し、他の研修については各教職員が対象や内容をもとに必要なに応じて参加について判断いただいています。

意見

教員のウェルビーイングの向上ためにも、教員同士でよい所を伝え合う文化の醸成

教員も学び続けるために、研修を受けたり、教材研究に時間を費やすことができる職場環境（人的・時間的）が必要である。

学校群を活用した人材の確保（マネジメント）

ボランティア人材の確保の工夫

第4期プランへの反映や対応

記載は ☒
 未記載は ☐

▶ 教員がこどもと向き合うためには、教員自身のウェルビーイングの向上は重要と考えています。教職員のウェルビーイングについては「基本施策4学校マネジメント力」の中で記載しています。

▶ 教員がこどもと向き合うためには、教員自身のウェルビーイングの向上は重要と考えています。教職員のウェルビーイングについては「基本施策4学校マネジメント力」の中で記載しています

▶ 複数の学校を1つのチームで考えるという観点から、これまでのあたり前やルールを見直し、教員同士の連携がより実践しやすく安心できる職場環境の醸成につなげます。

▶ 部活動の外部人材の活用については、引き続き部活動指導員を配置し部活動顧問の負担軽減を図ります。
部活動をはじめ、外部人材を活用した学校園業務の適正化について、「ウェルビーイング向上のための取組指針」に基づき取組を推進します。

基本施策5 誰一人取り残さない教育

意見

支援学級において、障害種別の学級を設置する（在籍が一人でも教員を一人あてる）など、中学校支援学級の教員体制の充実

特別支援コーディネーターや生徒指導主事を中心とした他校や他機関との連携

特別支援コーディネーターの複数体制と業務の分担

学校規模や業務内容に応じて主幹のような時間軽減を市独自で設定するなど、特別支援コーディネーターの業務の負担軽減

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
 未記載は ☐

▶ 障害種別ごとの学級設置、学級運営は現状の「制度」であり、今後も同様であるため。

▶ 特別支援教育コーディネーターは、各学校における特別支援教育を推進するため、校内委員会や校内研修の企画・運営、関係機関や他校との連絡・調整、保護者からの相談窓口などの役割を担い、校務分掌に明確に位置付けています。
しかし、学校の規模や環境などにより、校内委員会の企画・運営や外部機関との連携といった業務内容や負担は学校ごとに異なるため、一律に専任化することは難しいと考えています。

意見

いじめ防止に向けて、より効果的な指導、学習について考える必要がある。例えば、人権的な配慮をしたうえで、いじめにかんするシミュレーションでの学習などを通して、言葉の理解ではなく、「いじめはだめだ」「いじめはつらい」と実感できるようなことができたらいいのではないかと（効果的ないじめ防止対策訓練）

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
未記載は ☐

いじめ防止にむけては、児童生徒が互いのよさや多様性を認め合うことができるように、こどもたちがいじめを自分事として捉え、いじめに対する理解を促す授業を実施しています。

意見

百舌鳥支援学校の過密化、老朽化への対応

保護者、こども、教員が見通しを持てるように、支援学校設置計画の提示

生徒数が多すぎる学校、逆に少ない学校もあるため、学校の生徒数の上限を明示

第4期プランへの反映や対応

記載は ☒
 未記載は ☐

▶ 喫緊の課題である百舌鳥・上神谷両支援学校の狭隘化解消のため、令和8年4月の支援学校分校開校に向けて準備を進めています。次期計画においては、支援教育のあり方について記載する予定です。

▶ 市立支援学校のあり方については、支援学校分校開校後、児童生徒数の推移を見極めた上で検討します。

▶ 児童数の推移等を勘案しながら、学校規模の適正化にむけた検討を進めます。

意見

福祉・行政・医療等との連携の充実

行政の垣根を越えて福祉機関等との定期的な情報交換の場の設定

学校以外の「学びの場」の設定とオープンな情報公開

提出資料が多く、スプリングポートなどを利用する際は、面談や多くの必要書類の記入が必要のため、保護者が対応できないため、スプリングポートを利用しにくくなっているケースもある。
もう少し、提出資料を減らすなど、ハードルを下げることで利用する際の手続きを簡略化し、より利用しやすくなるのではないかな。

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
 未記載は ☐

▶ 学校だけでは解決が困難な不登校やいじめ、虐待、貧困問題、発達的な課題など、複雑化・困難化する社会的な課題の解決に向けて、スクールロイヤーなどの専門家や、市役所や区役所内、他の関係機関等と連携します。

▶ 市役所内を含めた関係機関との連携は重要と考えておりますので引き続き、連携を図ります。

▶ 不登校の児童生徒の学校外の居場所として、教育委員会では教育支援教室を設置し、学習支援など個に応じた支援を行っています。また、堺市HPで、教育支援教室のほか、区役所が運営するこどもの居場所、フリースクールなどの情報を提供しています。

▶ 提出資料は、いずれも教育支援教室入室に必要な資料のため、保護者の方には教育支援教室からも見学や入室面談の際に丁寧に必要性を説明します。

意見

学校外のネットトラブルなどについて、他に相談する場所などを啓発（学校外で生じたトラブルについて、学校に相談や仲裁を求める保護者が増えてきており、対応に苦慮する。）

地域人材を積極的に活用をして、地域と連携したマイスタディのような取組の復活

市立図書館の活用方法を学校（教員、児童生徒）へ周知し、具体的な事例や活用方法を知ること、教員、児童生徒による図書館の活用率が向上するのではないかな。

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
 未記載は ☐

学校外の相談窓口として、各種教育相談窓口があり、市HPでの啓発も行っておりますが、そこでは学校との連携を前提として悩みの解決等を図るしくみであり、学校の関与は必ず発生します。

しかしながら、スマートフォンの使用方法等によるトラブルについては、第一にはまず家庭内でのルールづくりや、トラブルが生じた場合でも、家庭間での連携による解決・家庭の教育力の向上を図ることが求められます。

この観点から、すべての保護者を対象に、スマートフォンの使い方に関する講座の開催などの取組を進めており、これらは「基本施策9 社会で支えるこどもの育ち」の中で位置づけています。

地域の方々には、各種有償ボランティアの仕組みも活用しながら各学校における教育活動の充実にご協力いただいています。児童生徒の学習支援については各校の状況に応じて地域人材や児童生徒用端末を活用して取り組んでいます。

個別具体的な内容なので記載は見送りますが、毎年各学校園へ団体貸出制度の案内や教員の研修の機会に図書紹介・ブックリスト配布などを行っています。

意見

学校と家庭、地域の役割分担の明確化（なにを誰がするのか、なにを協働的に行うのか）を統一し、それぞれの明確にして、周知することで、連携の強化

学校、家庭、地域のつながりをより強固なものにするために、事務局代表、学校代表、自治会長、PTA会長の4者間での協議や会議の実施

第4期プランへの反映や対応

記載は ☐
未記載は ☐

学校・家庭・地域の連携は各校の実情等に応じて対応を行う必要があります。地域学校協働活動や堺版コミュニティスクールを推進することで、連携、協働を図ります。これらについては、次期計画に記載する予定です。

協議及び会議の具体的な内容が決まっておらず、多くの調整が必要ですので次期計画には記載しません。

成果指標について

黄色塗りつぶしはWGの意見が特に反映されている成果指標¹⁹

提案指標	
基本施策 1	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと答えた児童生徒の状況スコア※（小6・中3） ※（当てはまる(%)×3 + 「どちらかといえば、当てはまる(%)×2 + 「どちらかといえば、当てはまらない(%)」) / 3）として算出
	学力が伸びた児童生徒※の割合（小5・中2）【%】 ※IRT（項目反応理論）を活用した堺市学力・学習状況調査において学力レベルを伸ばした児童生徒
基本施策 2	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合【%】
	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合（小6・中3）【%】
基本施策 3	食に関心をもち、自ら健全な食生活を実践しようとしている児童生徒の割合【%】
	新体力テストの総合評価A～C判定の割合【%】 ※3 総合評価は、新体力テストの8項目の得点を合計し、A～Eの5段階で判定したもの（Aが最も得点が高い）
	「運動やスポーツをすることは好き（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合【%】
基本施策 4	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合【%】
	勤務時間外在校等時間が月平均45時間以下の教員の割合【%】
基本施策 5	「これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合と回答した児童生徒の割合【%】
基本施策 6	「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合【%】

提案指標	
基本施策 7	「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている（そう思う・どちらかといえばそう思う）」と答えた学校の割合【%】
	学校体育館の空調の整備率【%】
基本施策 8	学校内外で専門機関等の相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合【%】 ※本市では、生徒指導主事を全校配置し、専門機関等での相談・指導等を受けていない場合でも全員が、学校からの指導等を受けられている。
基本施策 9	「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった（そう思う・どちらかといえばそう思う）」と答えた学校の割合【%】
	「読書は好き（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と回答した児童・生徒の割合【%】
	市立図書館における市民一人当たり年間貸出点数

こどもの意見について（案）

中学校

生徒会リーダーフォーラム
令和7年1月実施

参加校

月州	殿馬場	泉ヶ丘東	東百舌鳥
登美丘	鳳	津久野	浜寺南
宮山台	晴美台	美木多	長尾
金岡南	大泉	さつき野	

小学校

出前授業
令和7年6月、7月実施

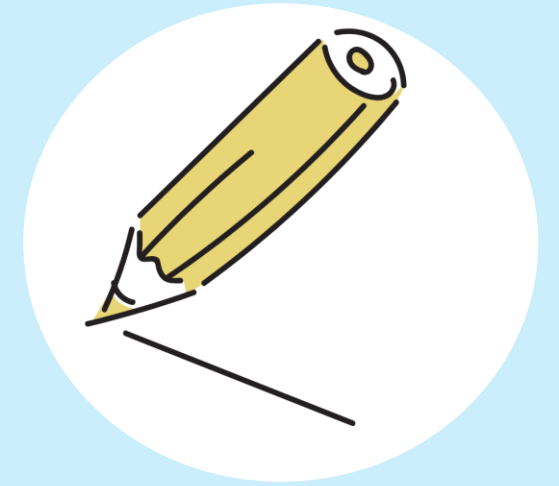
参加校

錦西	少林寺	土師	登美丘東
浜寺	福泉中央	庭代台	赤坂台
美原北			



目次

- 1 取組について
- 2 みなさんからの意見のまとめ
- 3 みなさんの主な意見への対応



令和7年1月実施

1 取組について

テーマ

- ・みんなが「わかる」「できる」ようになる授業とは
- ・学校でICTを使ってできること、したいこと
- ・一人ひとりが安心して通える学校とは

取組

- ①事前課題として、3つのテーマの中の2テーマについて意見をオンラインで共有
- ②当日は、グループで①の内容を再確認した後に意見交換
- ③選んだテーマについて、模造紙でまとめを作成

参加校

月州中学校	殿馬場中学校	泉ヶ丘東中学校	東百舌鳥中学校
登美丘中学校	鳳中学校	津久野中学校	浜寺南中学校
宮山台中学校	晴美台中学校	美木多中学校	長尾中学校
金岡南中学校	大泉中学校	さつき野中学校	

事前課題では、各テーマにつき、2つの小質問に回答

みんなが[わかる][できる]ようになる授業とは
 →「私の学校の楽しい授業・学びになる授業」
 →「授業や勉強が「わからない」「できない」時の私の対処法

学校でICTを使ってできること、したいこと
 →児童生徒用パソコンがなかった時とある時（今）のちがい
 →便利・有効なICTの使い方とその際にきをつけていること

一人ひとりが安心して通える学校とは
 →学校生活でどのようなことに不安を感じている？
 →不安を取り除くためには、どのような方法がある？



1 取組について

小学校 出前授業
令和7年6月、7月実施

テーマ

児童や学校の状況にあわせて、担任の先生等と相談して決定

－ 授業に関すること －

- ・「よくわかった！」と思った時はどんな時
- ・授業で「困ったな」と思う時はどんな時
- ・「勉強がんばろう」とやる気がでる授業
- ・児童生徒用パソコンの使い方
- ・こんな授業ならがんばれる！ など

－ 学校や教室に関すること －

- ・こんな宿題だったらいいな
- ・学校のルールについて
- ・学校にあるとうれしいもの・安心するもの
- ・学校に今あるモノや場所をChange！ など

「みんながもっと好きになる学校」
「行きたくなる学校」

という大きなテーマ（ゴール）に向けて、話し合いを進めた学校もありました。

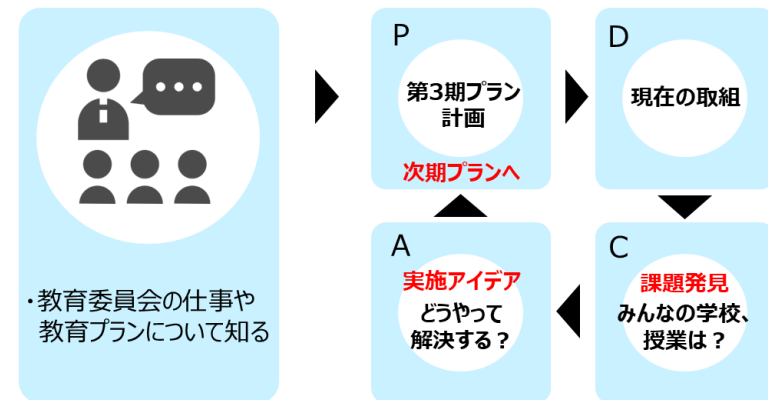
取組

取組方に関しても、児童や学校の状況にあわせて、担任の先生等と相談して決定

いくつかの小さな問いについて考える



PDCAサイクルを意識して、大きなテーマについて考える



1 取組について

小学校 出前授業
令和7年6月、7月実施

実施校





6月11日	赤坂台小学校（小学6年 2クラス）
6月19日	少林寺小学校（小学6年 1クラス）
6月20日	土師小学校（小学6年 2クラス）
6月25日	浜寺小学校（小学6年 委員会）

7月1日	登美丘東小学校（小学6年 2クラス）
7月4日	錦西小学校（小学6年 2クラス）
7月15日	美原北小学校（小学6年 3クラス）
7月16日	庭代台小学校（小学6年 2クラス）
7月17日	福泉中央小学校（小学5年 2クラス）



希望があった9校で出前授業を実施

2 みなさんの主な意見



学校や家庭での学習について

-  授業、学びに関すること
-  一人ひとりに合った学びに関すること
-  家庭での学習に関すること
-  その他

充実した学校生活について

-  学校の環境や登下校に関すること
-  給食に関すること

学校の施設・設備について

-  安全・安心に過ごすための設備に関すること
-  よりよく学習する環境に関すること

プランに書いた意見、書けなかった意見、対応ができる意見、対応が難しい意見、様々ありました。

しかし、どの意見も貴重な意見としてきちんと受け止めています。

今回は対応が難しくても、数年後にみなさんの意見が役立ち、後輩（こうはい）のためになることがあるかもしれません。

たくさんの意見をありがとうございました。

みなさんの意見を受け止め、みんなでよりよい学校、授業をつくっていききたいと思います。



3 みんなの主な意見への対応

学校や家庭での学習について



3 みなさんの主な意見への対応

授業、学びに関すること

みなさんの主な意見

【わかりやすい授業に関する意見】

- 授業中に「わかった」と思う場面は、実際にやり方を見せてくれた時、ゆっくり教えてくれた時、個別に教えてもらった時、具体的に教えてもらった時、最後までわからないところを教えてもらった時など。
- 勉強が苦手な人でも楽しめる環境を作る。
- 一人ひとりの長所や短所を理解して、一人ひとりに声掛けしてくれる先生がいてくれたらいいと思う。
- 「解き方」や「やりかた」を詳しく教えてくれる授業がいいと思う。
- テンポがよい、適度に生徒に質問を投げかけてくれる授業がいいと思う。
- 体験的な授業（理科の実験・図工の時間など）を受けたい。
- ゲームをしながら学びたい（学習とゲームをつなげて授業をしてほしい。）

ポイント

- 最後まで丁寧に寄り添ってほしい。
- 長所や短所、得意や苦手を理解した上で、いいクラスの雰囲気を作してほしい。
- 一方的ではなく参加型の楽しい授業がいい。
- 「答え」ではなく、「方法」を学びたい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

- 基本施策1 確かな学び「授業改善の推進」
- 基本施策4 学校マネジメント「教職員研修の充実」

【反映や対応について】

- 基本施策1には「授業改善の推進」について書いています。みなさんが自分に合った学び方を理解し、自分で学びを進められるように、学びのコンパスにもとづいて、よりよい授業をめざします。学びのコンパス（児童生徒用）に書いてあるように、先生に教えてもらうだけではなく、**自分で課題を発見して調べたり、友だちと話し合いながら、自ら学びを進める楽しさ**を知ってもらえる授業をめざします。
- 基本施策4には、「教職員研修の充実」について書いています。先生たちが、みなさんに最後まで丁寧に寄り添ったり、いいクラスの雰囲気を作れるように、よりよい研修を企画して、先生たちの資質・能力の向上をめざします。

3 みなさんの主な意見への対応




授業、学びに関すること

みなさんの主な意見

【ICT活用に関する意見】

- パソコンを使って自分のペースで自分の調べたいことを調べる授業。
- プログラミング（ゲーム作りなど）をしたい。
- 先生の言っていることを忘れてしまうこともあるので、授業の手順をタブレットで送ってもらったり、タブレットでメモをとったりしたい。
- L-Gateなどに学習内容が詳しくわかるものを送ってほしい。
- タブレットで開けるサイトを増やしてほしい。
- タブレットの宿題を増やしてほしい。
- 月一タイピングマッチをしてほしい。
- ドリルパークのような教育系のアプリを充実させてほしい。
- 授業中の不適切な使い方を止めたい。

ポイント

- 
もっとパソコンを使って自分で勉強を進めたい。
- 
パソコンのメリットを十分に生かしたい。
- 
ルールを守って、適切にパソコンを使えるようにしたい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありません

- **基本的視点 教育DX**
- **基本施策7 持続可能な教育環境 「学校のICT化環境の整備・最適化」**

【反映や対応について】

- すべてをプランの中には書けていませんが、みなさんからの意見は基本的視点の教育DXや、基本施策7に書いてあることにとっても関係しています。児童生徒用パソコン等をもっと便利に使って、よりよい授業や活動ができるようにすること、そのために学校のICTの環境を整えることなどについて書いています。
- 小学校でのプログラミングの授業や、板書を先生のパソコンで撮って配信したりすることなど、学校で先生や友達と相談して、できることから挑戦してほしいと思います。
- また、児童生徒用パソコンは学習のためのものなので、今後も引き続き、こどもにふさわしくないWEBサイト等には、アクセスできないようにします。

3 みなさんの主な意見への対応

授業、学びに関すること

みなさんの主な意見

【協働的な学びに関する意見】

- 友達とも交流を増やす。
- 互いに協力したり、質問したりできる環境を作ってほしい。
- 授業中に周りの人と相談できるようにしてほしい。
- 質問がしにくい時があるので、授業中に話し合える時間があつたらいい。
- 周りの人と相談できるようにしてほしい。また、勉強でわからなかった問題を質問しやすい空気、相談などを気軽にできる空間を作ってほしい。
- 話すのが苦手な人でも意見を安心して言える授業環境をつくってほしい。
- 自分の意見を持ち、発表する授業を受けたい（自宅学習ではできない学びがあるから）。

ポイント



みんなで学ぶことのよさを生かして、みんなで学びたい。



授業中でも、クラスの中で協力しあえる環境や雰囲気を作ってほしい。



安心して学びたい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

- **基本施策1 確かな学び「授業改善の推進」**

【反映や対応について】

- 基本施策1には「授業改善の推進」について書いています。学びのコンパスの考え方にもとづき、よりよい授業をめざすということを書きました。
- みんなで助け合いながら、協力して学ぶということについて、学びのコンパスでは、先生に教えてもらうだけではなく、自分で課題を発見して調べたり、**友だちと話し合いながら**、自ら学びを進めるなど、それぞれに適した学び方をすすめています。
- みなさんが友だちと協力しながら学ぶ場面も大切にして、よりよい授業をめざしていきます。

3 みなさんの主な意見への対応

一人ひとりに合った学びに関すること

みなさんの主な意見

【個々に対応した学び・習熟度別に関する意見】

- ・ 人それぞれ勉強が苦手などあるため、部屋を別にして苦手な人が授業を理解できるように部屋を作る。（授業を理解できないままだと宿題も難しくて楽しいと思えないと思ったから。）
- ・ ある1つの科目は、それぞれの理解度に合わせたクラス分けをして、それぞれの理解度に寄り添えるようにする。
- ・ 小学4年生で経験していた算数の習熟度別授業を実施してほしい。
- ・ 放課後等に、自分の苦手なところを改めて勉強する時間をとってほしい。
- ・ 勉強が苦手な人が楽しいと思えるようにするための配慮が必要。
- ・ 自分の考えを書くのが難しい（読書感想文や道徳の作文への苦手意識がある）。

ポイント

- 一人ひとりにあった勉強をしたい。
- 振り返りや自習をする時間を作ってほしい。
- 苦手を克服したい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

・ 基本施策1 確かな学び「授業改善の推進」

習熟度別授業については記載していませんが、実施しています。

【反映や対応について】

- ・ 一人ひとりにあった勉強という点について、現在、堺市では、**各小中学校の状況に応じて、それぞれの理解度に合わせた習熟度別指導を行っており、引き続き、みなさんに寄り添いながら、きめ細かな指導ができるよう取り組みます。**
- ・ みなさんが自分で勉強したことを振り返り、苦手を克服しながら学びを進めていけるように、学びのコンパスの考え方にもとづいた授業をすすめていきます。
- ・ また、苦手意識があることや克服したいことについて、みなさんのことをよく知っている学校の先生にも相談してみてください。

3 みなさんの主な意見への対応

一人ひとりに合った学びに関すること

みなさんの主な意見

【探究的な学びに関する意見】

- 学ぶ教科を自分たちで選択できるようにしてほしい。
- 自分で計画して授業したい。
- 毎月何かのテーマを持って、そのことについて調べる自主学習の時間をとってほしい。
- クロスカリキュラムを取り入れてほしい。

【主体的な学びに関する意見】

- 「やりたい！」と思ったことを尊重してくれる。
- 授業内容の選択と自己決定があってほしい。
- 単元内自由進度学習を取り入れてほしい。

ポイント



自分で選びたい。



自分で学びを進めたい。



複数の教科と関連付けた授業をしてほしい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

- 基本施策1 確かな学び「授業改善の推進」
- 基本施策1 確かな学び「教科等横断的な視点でのカリキュラム改善」

【反映や対応について】

- みなさんの意見は、まさに学びのコンパスの考え方と同じです。先生に教えてもらうだけではなく、**自分で課題を発見して調べたり、友だちと話し合いながら、自ら学びを進める**など、一人ひとりにあった学び方ができる授業をめざしています。
- 単元内自由進度学習など、様々な指導法については、それぞれの学校の様子や状況にあわせて取り組んでいます。学びのコンパスの考え方にもとづいた授業をすすめて、**自らが課題を見つけ、学びの内容や、学びの方法を選択したり表現したりすることができることをめざします。**

3 みなさんの主な意見への対応

一人ひとりに合った学びに関すること

みなさんの主な意見

【家庭学習に関する意見】

- 一人ひとりに合った家庭学習を作してほしい。
- 宿題を出した次の日ではなく、いつまでに提出するという形式にしてほしい。
- 休んだ日の授業の動画や板書などをパソコンで撮ってほしい。家や休み時間に観て勉強したい。

【時間割等に関する意見】

- 秋休みがほしい。
- 土曜登校にして、毎日4時間授業にしてほしい（家に早く帰れる分勉強もでき、遊ぶこともできていいなと思ったから）。
- 週に1、2回学校を休んでいいルールを作る。ただし、その時は宿題を出す（やる気が出ない日にも対応できる柔軟な制度）。
- 35分×7時間（息抜きできる時間を増やし、集中できるようにする。）

ポイント



自分にあった方法やペースで家庭学習をしたい。



休んだ日の補充学習がしたい。



授業日や長期休暇について、変えてほしい。



授業時間を変えてほしい。

第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

- 基本施策1 確かな学び「家庭学習習慣の形成」
- 基本施策1 確かな学び「教科等横断的な視点でのカリキュラム改善」
- 基本施策4 学校マネジメント力「R-PDCAサイクルによる学校経営の推進」
- 基本施策9 社会で支えるこどもの育ち「家庭教育支援の充実」

【反映や対応について】

- 基本施策1には「家庭学習習慣の形成」、基本施策9には「家庭教育支援の充実」として、みなさんの家での勉強がよりよいものになることをめざした取組について書きました。
- 宿題を含めた家での学習は、学校で習ったことから出てきた新しい疑問や課題について、自分で調べたり考えたりすることで、もっと深く学ぶためのものです。また、習ったことをしっかり身につけることで次の学習につながります。このことから家庭学習はとても大切だと考えていますので、みなさんが家でもしっかり勉強できるように工夫していきたいと思います。
- 学校の授業は年間で●時間しなければならないと決められています。また、授業1コマを何分にするかについては、その授業時間の数を守りつつ、みなさんの様子や各教科等の特質を考え、最も適切な時間を各学校で定めることになっています。そういったことを各学校が考えていけるように、基本施策1「教科等横断的な視点でのカリキュラム改善」や基本施策4の「R-PDCAサイクルによる学校経営の推進」に取組を記載しました。

3 みんなの主な意見への対応

その他

みんなの主な意見

【地域での学習に関する意見】

- 地域の方と学ぶ授業を受けたい。

【動物の飼育に関する意見】

- 動物を飼育してお世話したい。

【プールに関する意見】

- 夏休み中、または夏休み後も学校のプールに入れるようにしてほしい。

【テストに関する意見】

- テストで偏差値を出してほしい。

ポイント



地域の方と交流がしたい



動物と触れ合いたい



プールにもっと入りたい



友だちと、いい意味での競争がしたい

第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

- **基本施策2 豊かな心「こどもの体験・交流活動の充実」**

動物の飼育、プール、テストに関する意見については、記載はありません

【反映や対応について】

- 学校だけでなく、地域や企業、様々な人と関わりながら学ぶ機会を増やしていくということを、基本施策2の「こどもの体験・交流活動の充実」に書きました。
- 動物の飼育については、プランには書いていません。**夏休みなど長期休業中のお世話などの課題があるため全ての学校で飼育は行っていないからです。**
- **夏休み中や授業でのプールの使用に関しては、各学校で決めているため、プランには書いていません。**学校の先生や児童会、生徒会等で相談してみてください。
- 友だちと切磋琢磨することも大切ですが、**本市では、一人ひとりの学力の伸びに注目し、その後の自分の学び等に役立ててもらうことを大切にしたいと考えているため、テストで偏差値を出すことについて書きませんでした。**

3 みなさんの主な意見への対応

充実した学校生活について

3 みなさんの主な意見への対応

学校の環境や登下校に関すること

みなさんの主な意見

【学校に関わる人に関する意見】

- 算数専門や体育専門の先生を雇ってほしい。
- 先生を増員してしてほしい。教室に2人くらいいてほしい。
- 清掃員を雇ってほしい。
- 学校から帰る時に安全パトロールの人が立っていない時が不安になる（見守り隊の人たちがいつも見てくれて安心できるから）。

【登校の方法に関する意見】

- 自転車で登下校したい。家が遠い人はとても助かるし、それ以外の人にも助かるし、重たい荷物があるときに良いと思うから。
- 熱中症にならないように、また、足が不自由な人でも学校に行きやすいようにスクールバスで登下校したい。

ポイント



教職員や学校に関わる
人を増やしてほしい



自転車で登下校が
したい



スクールバスで登下校
がしたい

第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありませんが、現在取り組んでいることもあります。

- **基本施策4 学校マネジメント「学校組織の構築に向けた人事配置と育成支援」**
- **基本施策9 社会で支えるこどもの育ち「地域人材の発掘と育成」**

【反映や対応について】

- 学校の先生等の数については、学校の状況を考えながら、**適切かつ効果的な人事配置**（その学校で働く先生を決めること）を行い、よりよい学校をめざすということを、基本施策4「学校組織の構築に向けた人事配置と育成支援」に書きました。
- プランには記載していませんが、清掃員について、先生たちの働き方改革という点からも、**大掃除等について清掃会社等**にお願いすることも考えています。
- **通学の方法については、各学校が、みなさんの安全性等を考えて、それぞれの状況に応じて決めているため、プランには書いていません。**
- 現在も、地域の状況や様子にあわせて、地域の方々の協力をいただきながら、みなさんの登下校を見守ってもらっています。**これからもみなさんが安心して登下校できるよう、地域の方々と協力します。**


3 みなさんの主な意見への対応


みなさんの主な意見

【給食時間とメニューに関する意見】

- 食品ロスを減らすために給食の時間を増やしてほしい。
- 給食の献立を月に1回自分たちで決めれるようにしてほしい。
- 月に1回お弁当を持っていく日を設けてほしい（給食が苦手な人にとってもいいから）。
- 給食バイキングを行いたい。
- 月に1回しかパンが出なかった時があったから。もっとパンを増やしてほしい。
- 給食でパンとご飯を選択できるようにしてほしい。

ポイント

 **給食の時間を増やしてほしい。**

 **献立や主食など、自分たちで選べる部分を増やしてほしい。**



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありませんが、現在取り組んでいることもあります。

- **基本施策3 健やかな体「食育の推進」**
- **基本施策6 こどもの安全・安心「安全・安心でおいしい学校給食の提供」**

【反映や対応について】

- それぞれの学校で、給食の配膳や片付けなどの対応を行い、給食時間を作っています。そのため、プランで一律に書くことは難しいです。もしよければ、先生や児童会、生徒会等で相談してみてください。
- 献立の作成は、学校や保護者の意見を確認しながら行っています。プランには書いていませんが、**今後は、みなさんの意見も献立に反映していけるようにしたい**と思います。
- 堺市では、O157 堺市学童集団下痢症の発生を教訓とし、**安全・安心を第一に、みなさんが楽しく食事ができる、おいしい学校給食を提供することを大切にしています。**

3 みなさんの主な意見への対応

安全・安心に過ごすための設備に関すること

38

みなさんの主な意見

【安全・安心に関する意見】

- 不審者が入ってきたときのために運動場に緊急用ボタンが必要だと思う。
- AED等の命に関する機械を教室の前か運動場に設置してほしい。
- 熱中症対策のため。運動場に休める屋根がほしい。
- こけてもケガがしづらいため、グラウンドが芝生になってほしい。
- 最近、不審者が増えており、その対策のために防犯カメラを設置してほしい。学校内外のセキュリティーを強くしてほしい。
- ろうかを歩いている際に、角でぶつかるかもしれないので、カーブミラーがあれば安心だと思う。

ポイント



安全・安心に学校生活を送りたい。



緊急時の対応を強化してほしい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありませんが、現在取り組んでいることもあります。

- **基本施策7 持続可能な教育環境 「点検・保守の確実な実施」、「機能的な改修」**

【反映や対応について】

- プランには書いていませんが、現在、**小学校では、校門付近に監視カメラを設置しています**。また、中学校にも令和7年度にかけて設置を進めており、みなさんが安心して学校に通うことができるように引き続き取り組みます。
- 学校施設の改修等は、**学校の状況に応じて優先順位を考えて行っています**。そのため、みなさんの考えをすぐに実現することはできませんが、いただいた意見は今後の参考にさせていただきます。
- 学校の先生に相談して対応できそうなところについては、ぜひ相談してみてください。

3 みんなの主な意見への対応

学校の施設・設備について

3 みなさんの主な意見への対応

安全・安心に過ごすための設備に関すること

40

みなさんの主な意見

【トイレや水道に関する意見】

- トイレを新しく、清潔にしてほしい。
- トイレを増やしてほしい。
- 洋式トイレの便座をふくクリーナーを設置してほしい。
- トイレにドアを付けてほしい。
- トイレの入り口にしきりを付けてほしい。
- 冬は寒く、夏は暑いから蛇口の温度調節ができるようになってほしい。

【プールや水道に関する意見】

- プールサイドの地面が熱いから。屋内プールにしてほしい。
- プールに男子更衣室がほしい（女子更衣室しかないため、教室に帰る時や教室で水を落とさないように注意しないといけないから）。
- 温水プールにしてほしい（シャワーを含め、水が冷たいため、少しでもいいから温かくしてほしいから）。

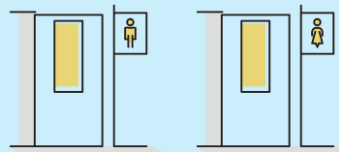
ポイント



トイレをきれいに使いやすくしてほしい。



水道の温度調節ができるようにしてほしい。



より快適にプールの授業を受けられるようにしてほしい。

第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありませんが、現在取り組んでいることもあります。

- 基本施策7 持続可能な教育環境 「点検・保守の確実な実施」、「機能的な改修」

【反映や対応について】

- 基本施策7には、「点検・保守の確実な実施」、「機能的な改修」について書いています。一つ一つの改修等について詳しくは書いていませんが、学校施設の改修等は、**学校の状況に応じて優先順位を考えて行っています。**そのため、みなさんの考えをすぐに実現することはできませんが、いただいた意見は今後の参考にさせていただきます。
- 今後も、みなさんが快適に学校生活を行える良好な環境の整備をめざします。

3 みなさんの主な意見への対応

安全・安心に過ごすための設備に関すること

41

みなさんの主な意見

【大きな設備に関する意見】

- 車いすやケガをした人のためになるからエレベーターを学校に設置してほしい。
- 遊具（遊び場・活動場・室内）をもう少し増やしてほしい。

【その他設備等に関する意見】

- 飲み物がなくなったときや熱中症対策のためにウォーターサーバーを学校に置いてほしい。
- 建付けの悪い古くなったドアを変えてほしい。
- 手すりが錆びていて、刺さってしまうからきれいにしてほしい。
- 強化ガラスに変えてほしい。

ポイント



よりみんなが快適に、安全に学校生活を送れるようにしたい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありませんが、現在取り組んでいることもあります。

- **基本施策7 持続可能な教育環境 「点検・保守の確実な実施」、「機能的な改修」**

【反映や対応について】

- 基本施策7には、「点検・保守の確実な実施」、「機能的な改修」について書いています。一つ一つの改修等について詳しくは書いていませんが、学校施設の改修等は、**学校の状況に応じて優先順位を考えて行っています。**そのため、みなさんの考えをすぐに実現することはできませんが、いただいた意見は今後の参考にさせていただきます。
- また、エレベーターの設置には、多くのお金と時間が必要です。そのため、配慮が必要なこどもが通っている学校など、**学校や児童生徒の状況に応じて、設置を進めています。**
- 学校の危ない場所など、気になったことは、学校の先生にも相談してみてください。

3 みなさんの主な意見への対応

よりよく学習する環境に関すること

みなさんの主な意見

【教室内の環境に関する意見】

- 机をもう少し大きくしてほしい（授業中に机がいっぱいになることがあるから、モノが落ちて壊れたりするから、タブレットがあると机のスペースがいっぱいになるため）。
- 椅子が硬くて集中できないし、こしが痛くならないから。ふわふわ・ふかふかのイスにしてほしい。いすにクッションがほしい。楽に座れるいすがほしい。
- 個人用のロッカーを教室に置いてほしい。
- 飲み物が冷やせるし、暑さで飲み物が腐らない（食中毒対策）ために、教室に冷蔵庫を置いてほしい（他市で小型冷凍庫を置く事例がある）。

ポイント



今の時代にあわせて教室環境を整えてほしい。
（机の大きさや暑さ対策など）



より快適に勉強ができるようにしてほしい。



第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

直接的な記載はありません

- 基本施策7 持続可能な教育環境 「学校施設・設備の計画的な整備」

【反映や対応について】

- 基本施策7には、「点検・保守の確実な実施」、「機能的な改修」について書いています。一つ一つの改修等について詳しくは書いていませんが、学校施設の改修等は、**学校の状況に応じて優先順位を考えて行っています。**そのため、みなさんの考えをすぐに実現することはできませんが、いただいた意見は今後の参考にさせていただきます。
- みなさんの状況にあわせて、よりよい教室や学校になるように、今後も取り組んでいきます。

3 みなさんの主な意見への対応

よりよく学習する環境に関すること

みなさんの主な意見


【ICT環境等に関する意見】


- プロジェクターかスクリーンがほしい。
- テレビをスクリーンにする、又は、テレビを大きくしてほしい。
- 黒板が緑で眠たくなるから黒板をホワイトボードにしてほしい。
- タブレット軽くしてほしい。持ち帰りがしやすく、軽くて使いやすい iPad に変えてほしい。
- 目が悪くなるから。タブレットの画面をブルーライトカットにしてほしい。


【校舎内、教室等に関する意見】


- 茶道（茶菓子やお茶）を嗜むため、畳の部屋がほしい。
- 自然に触れるため、学校の中に緑をもっと増やしてほしい。
- 中に誰がいるか分かり、中の雰囲気がよくなるから、職員室を透明なガラス張りにしてほしい。
- 人数が多くて教室が狭いから学級数を増やす。


ポイント


 教室のICT環境をよりよくしてほしい。

 黒板を変えてほしい。

 児童生徒用パソコンを変えてほしい。

 教室や特別教室などの部屋を増やしてほしい。

 自然に触れたい。

 職員室を変えてほしい。

第4期プランへの反映や対応

【書いてあるところ・関係のあるところ】

校舎内、教室等に関する意見については、直接的な記載はありません

- **基本施策7 持続可能な教育環境 「学校ICT環境の整備・最適化」、「学校規模及び学校配置の適正化」**

【反映や対応について】

- プランには書いていませんが、小・中学生のみなさんのアンケートの意見などを基に検討した結果、次の児童生徒用パソコンは、iPadを予定しています。
- 学校施設だけでなく、教室のICT環境の改修についても、多くのお金やきちんした準備等が必要になりますので優先順位を考えて行っています。そのため、みなさんの考えをすぐに実現することはできませんが、いただいた意見は今後の参考にさせていただきます。
- 堺市では、今は小学校のクラスは35人以下、中学校のクラスは38人以下にしています。もっと少ない人数のクラスにするためには、先生の数や教室の数を増やす必要がありますが、**中学校のクラスを35人以下にすることについては、今、国で話し合われています。これからもクラスの人数について、国でどのように話し合われているのかを注意深く見ていきます。**